貝塚市立第五中学校
道　徳　通　信

若竹

平成21年12月24日
第　2　号

☆「見残しの柿」と「アイヌプリ」

豊かで優しい人々の感性を見事に証明している風習が「見残しの柿」であります。これは、柿の実が枝もたわわに成った時、木のてっぺん近くのできるだけ大きな実を２つと、地面に近いところの１つを残すというものです。

このようにして残された３つの実は、それぞれ目的が違います。すなわち、

１つは、のどの渇いた旅人のために、

１つは、冬になって食べ物が無くなった時の小鳥たちのために、

１つは、種をとるために、

残しているのです。誠に麗しい風習と言えましょう。太陽や雨や空気や土といった大自然に恵みを受けて育った果実を自分だけのものとせず、旅人や小鳥や子孫に心配りをしているのです。

一方、北海道のアイヌの人々にも、昔より伝わるサケ漁に関する良き風習が残っています。サケは、冬の冷たい川で孵化し、５月には川下りの旅に出ます。そして、ベーリング海やアラスカなど、餌の豊富な場所を求めつつ、３年半にもわたって回遊しますが、やがて繁殖期を迎えると、自分の生まれた川の懐かしい匂いを辿って戻ります。川を遡上してくるサケは、背が盛り上がり、体が赤色に変化し、口は鋭い形に曲がっています。

遡上するサケの大群

ところで、アイヌの人々はこのサケを獲ろうと思えば全てでも獲れる（遡上するので、川幅一杯に網を張れば全部獲れる）ものを、そうはしないのです。『３分の１はカムイ(＝神・自然)のもの、３分の１は熊や鳥のもの、そして、残りの３分の１のサケを自分たちが獲る』という“アイヌプリ”（アイヌの風習）があるのです。カムイとの共存、生命に対する畏敬の念、さらに自然界に対する感謝の念や謙虚さが滲み込んだ素晴らしい風習であり、アイヌの人々の厳粛な生き方・精神性があらわれていると言えましょう。

私たちも、これらの麗しき風習の底に流れている豊かな精神・魂・心を受け継ぎ、周囲からの様々な恵みには身を低くして感謝し、一つ一つの場面には「真(しん)込めて」(※ 元来は、米作りに対する姿勢に用いた言葉で、“真心を込めて誠実に”の意) 行動することを互いに約束し合いながら、新年を迎えたいものですね。そして来年も、こうした地域社会の中で、五中生が大いに成長し活躍することを心から期待したいと思います。

☆「月明かりで見送った夜汽車」 ～ＰＴＡ講演会より～

12月3日に行われましたＰＴＡ講演会は、大阪府中学校道徳教育研究会の第２代会長をされました宮脇賢治氏による模擬授業でした。当初 予定していました関西学院大学の横山利弘教授（元・文部省教科調査官）が体調不良だったため、急遽お願いしてお越しいただいた次第です。

しかし、宮脇先生のおかげで、思ってもみなかった「模擬授業」という斬新で楽しい形式の講演会となりました。この模擬授業で用いたお話は、裏面に掲載しました「月明かりで見送った夜汽車」です。まずは、ご一読ください。

さて、模擬授業はご参加いただいた皆さんが「生徒役」となって進められましたが、宮脇先生の「“いいなあ”と思ったところを発表してください。また、選んだ理由も教えてください。」「一体、皆は何に拍手を送ったのでしょうか。」等の質問によって、思いやりへの多様な意見が発表されました。

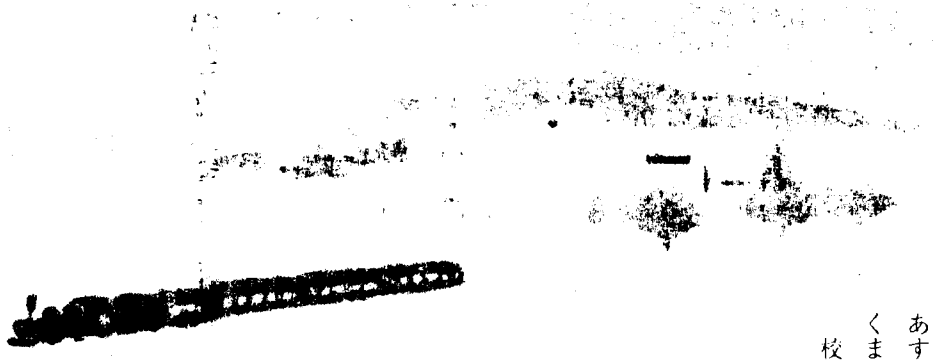
例えば、「拍手の意味」への答えだけでも、①Ｙ先生の思いやりに対する感動、②電気を消した粋な振る舞いへの感心、③Ｙ先生の判断・行為を支持するという意思表示、④Ｉ先生を応援しようという気持ちを表現したもの、⑤全員の温かい気持ちが一つにまとまったもの、等が考えられるわけです。このように、ご参加いただいた方の意見・感想の一つ一つに説得力と個性が光っており、非常に大きな刺激を受けました。宮脇先生からも「五中ＰＴＡの皆さんは、大変意欲的かつ熱心で、お話に対する読みの深さといい、生活経験に引き寄せての感性の鋭さといい、どれも素晴らしいもので、私の方こそ新たに発見させていただくことが多くあり、とてもよい勉強をさせていただきました。本当にありがとうございました。」との手紙を頂戴しているほどであります。

今後、五中の道徳授業におきましても、この宮脇先生と保護者の皆さんとの遣り取りに負けない授業を、生徒とともに創り出していきたいと思っております。どうか、３学期も温かなご支援とご協力をお願い申し上げます。

暁教育図書「中学生の道徳」より

月明かりで見送った夜汽車

武藤　治枝



昭和四十二年、私が学校事務職員として初めて勤めた小学校の二年目の秋のことです。

あすから二日間開かれる文化祭の準備のため、その日も多くの先生方は遅くまで、最後の飾りつけに一生懸命でした。児童数が千人を超える大規模校でしたし、作品の種類もたくさんあって、子ども達の手を借りられる仕事は限られてもいましたので、飾りつけは大変な仕事でした。子ども達が心をこめて作ったものばかりですから、数が多いからといって手を抜くなどということはできるはずもなく、一つ一つ丁寧に飾りつけられていました。

そんな先生方に交じって、若さにまかせてはしゃぎながら私も六年生の飾りつけの手伝いをしていました。

午後八時を少し過ぎた頃だったと思います。私がお手伝いをしていた六年生のI先生が学年主任のY先生と何か話をしています。

まだ六年生の飾りつけが途中で、とても申し訳ないが、これから夜行*で、国体*の県代表として出かけなければならない時間になったこと、駅で仲間が待っているから、そろそろ出かけたいという内容のようでした。

そういえば、今朝の職員打ち合わせの時、校長先生がそうおっしゃっておられたっけ、そうかそのことなのかと私は思いました。

するとY先生は、

「飾りつけも、もうここまでくればあと一息だ。一緒に国体へ行かれる仲間の方々に迷惑がかからないように、あとは僕達に任せて、頑張ってこいよ。あんたが汽車に乗る頃までには全部終わるだろうから安心して」

とI先生を送り出したのです。

私の勤めていた学校は高田*市の市街地のはずれの方にあり、高田駅から約二キロ離れた信越*線の沿線近くにありました。当時、線路と三階建て鉄筋校舎の間には畑が広がっており、大きな建物もなかったので、日中であれば列車の窓からは、学校がよく見えます。私も上京*の折り、あまりの近さに驚いたことがあります。高田駅を発車した列車は、三、四分もすれば学校の脇を通過するのです。

I先生を送り出して、一時間ほど過ぎましたが、飾りつけは、まだまだ終わりそうにもありませんでした。作品の見方の説明は、これでどうだろうか、この作品は、こんな配列にした方がより効果的みたいだね、などと話をしている声が聞こえます。

でも時間がたつにつれて、だんだん口数が少なくなり、黙りがちになって、どの先生もだいぶ疲れているのがわかります。

夜行
夜行列車の略。夜出発して目的地に朝到着する列車。

国体
国民体育大会の略称。

高田市
現在の新潟県上越市の一部。一九七一年に直江津市と合併し上越市となった。

信越線
当時の国鉄信越本線。現在の信越本線（JR東日本）は群馬県高崎―横川と長野県篠ノ井―新潟を結ぶ。

上京
東京へ行くこと。

その時、突然、Y先生が、まわりにいた先生方に、
「もうすぐ、I先生の乗る列車が発車する。学校中の電気を消してもらうよう、放送しよう」
と言われました。
ブレーカー*が落とされ、あっというまに、あたりはまっ暗になり、一瞬、何のことかわからなくてポカンとしていた私の耳に、校内放送が聞こえました。
「お仕事の途中、たいへん申し訳ありませんが、I先生が国体に出かけるため、まもなく高田駅を出発します。飾りつけ途中に出かけることをとても気にしておられたので、全部終わったと安心して出かけてもらうために、少しの間、校内の電気を消させて頂きました。お願いします」
暗闇の中から、オーという声と、拍手が聞こえました。
私は急いで窓ぎわへ寄って、線路のあたりを、目を凝らして見つめました。三階の教室の窓からは、ゆるいカーブになった線路が、月明かりに、はっきり見えます。
どの位たったでしょうか。
夜汽車が通って行きます。胸がジーンとしてきました。ここから人の顔などわかるはずもないのに、私は、I先生の姿を見つけようとガラスに顔をくっつけ、列車の窓明かりを見つめていました。
列車は、暗闇の中に吸い込まれるようにして、消えて行きました。
I先生は、電気の消えたまっ暗な校舎を見て、きっと安心して出かけられたと思います。
あたりが急に明るくなり、ハッと我に返りました。先生方は、また前のように、忙しそうに仕事を続け始めました。

〔PHP研究所刊「生きる」による〕

*ブレーカー　電気の回路遮断器。

☆模擬授業を受けての感想　～紙幅の都合で、ごく一部だけを紹介します～

○　相手の立場に立って考えて行動することも難しいですが、それを行動に移すことも勇気がいると思いました。今の世の中では特に。

○　心が温かくなりました。このお話のような社会であれば、素晴らしいと思います。今日、子供たちとも話し合いたいことです。

○　今日は本当に素晴らしいお話をしていただき、ありがとうございました。久しぶりに学生に戻った気分で、楽しい授業を受けさせていただきました。

○　話の内容を深く考える機会が持てて、また、他のお母さん方の意見も聞けて良かったです。思いやりについて、もう一度、考えることができました。

○　何十年ぶりかの道徳授業を受けてみて、自分ではすっかり大人になったつもりでしたが、もっともっと深く考え思いやることを見直そうと思いました。

○　新鮮な気持ちでこの文章に含まれた色々な人の思いを考えることができました。この短い文章の中に深い思いがあるなあと感動し、心が温まりました。

○　普段だとさっと読んでしまうこんな短い文章でも、質疑応答をしながら考えることで、深い意味が見えてきました。その過程が、とても楽しかった。

○　素晴らしい職場、仲間に囲まれることの幸せを感じました。「粋な振る舞い」のできる人を育てるのが道徳！　なるほどと大変納得しました。

○　講演会で授業のように意見を言うのは苦手なのでドキドキしました。でも、色んな人の意見が聞けて良かったです。素晴らしいお話にも感動しました。